や生活習慣起因、受診訴 え

男性に原因のある不妊症について、県内の自治体や医療機関が啓

2015年度、男性 とから、男性の受診を促すことが狙いだ。 ようになった半面、 発や診療体制を強化し始めた。卵子の老化と不妊の関係が知られる 不妊の半数は男性側にも原因があるとされるこ (塩沢恵子)

子異常や病気などで生 治療を助成制度の対象 ると、17年度までに県 内の全市町が男性不妊 場合のほか、生活習慣 殖機能に問題が生じる した」とみる。県によ して啓発したのが奏功 に含めた。 男性不妊には、遺伝 ことが重要だ。 で不妊治療に取り組む は男性6割、

度は11件に伸びた。担 当者は「医療機関にパ

は3件だったが、16年

ンフレットを置くなど

Women's

の場合、初年度の申請

る助成を始めた静岡市 不妊治療の手術に対す

ると、不妊の原因が女 男女両方が24%。 性だけにあるケースは ている。世界保健機関 との関わりも指摘され (WHO) の調査によ 男性もいまだにいるの スクリニック」は3月、 環境をつくるため、静 も事実」と話す。 受診をかたくなに拒む を感じた。とはいえ、 稲垣誠院長は「参加者 民公開講座を開いた。 で、男性の関心の高さ 門「いながきレディー 男性不妊をテーマに市 男性が受診しやすい 沼津市の不妊治療専 女性4割 で助 成対象

ら、医師の事務作業を ク」に男性を置く。 補助する「診療クラー ック」では今月13日か 専門「俵ーVFクリニ 男性不妊外来の担当

士のアシスタントを務 れたのを受け、胚培養 性がいると話しづら れまで女性しかいなか う診療クラークは、こ カルテの入力などを行 医師は男性だが、電子 い」という声が寄せら った。男性患者から「女 の専門学校で、同級生 中ただ1人の男子生徒 クスして診察を受けて い」と話す。医療事務 いただけるようにした は男性にとってもデリ ートな問題。リラッ

ることになった。 診療クラークを兼務す める堀川晃さん(20)が 俵史子院長は「不妊 んでいる。 を引き締め、 伝えるのが仕事」と気 りをスタッフに的確に は「診察室でのやりと だったという堀川さん

電子カルテ入力の 研修を受ける 堀川晃さん(右)=4月下旬、静岡 市駿河区の俵IVFクリニック

特集面 45

静岡新聞